

北見工業大学学報

第219号 (2007年1月号)

目 次

年頭挨拶	今年も課題がいっぱいです！……………	2	
入 試	平成19年度推薦入学試験の実施……………	3	
	平成19年度大学入試センター試験の実施……………	3	
研究助成	平成18年度科学研究費補助金交付内定(間接経費追加配分)……………	4	
	NEDO技術開発機構 平成18年度産業技術研究助成金交付決定……………	4	
	(財)岩谷直治記念財団		
	第33回(平成18年度)科学技術研究助成対象研究決定……………	4	
	平成18年度共同研究の受入状況……………	4	
	平成18年度奨学寄附金受入状況……………	5	
国際交流	マレーシアでの日本留学フェア参加報告……………	6	
諸 報	「2006年度北見工業大学水処理技術国際シンポジウム」を開催……………	8	
	第2回北見工業大学パネル展を開催……………	10	
	FD推進のためのワークショップおよび報告会を実施……………	11	
	ウインター・サイエンスキャンプ「雪と氷の世界を体験しよう」を実施……………	12	
	旭山動物園長の特別講演会を実施……………	13	
	北見工業大学「技術士養成支援講座」の開講……………	14	
日 誌	12月・1月……………	15	

= 年頭挨拶 =

今年も課題がいっぱいです！

学長 常本 秀幸

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

1年を振り返ると実に色々なことが思い出されます。私の記憶に最も強く残っているのは、現職3人の方とお別れしたことです。悲しいこともありましたが、嬉しいことも沢山ありました。法人評価もまずまずであり、科学振興調整費、科研費等の大型予算の採択など資金面では本学始まって以来の勢いでした。また、1号館の改修も全て着工することができ、さらに図書館の増築など学習環境の整備が予想以上の早さで進んでいます。ある人と学長職の多忙さの話をしていましたら、「月は満月になったら欠けるだけです、組織は課題があるから活力も出る」と言われ、なるほどと感心したしだいです。今年も色々な課題に挑戦したいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

さて、例年お伝えしている概算事項の内示についてですが、臨時学長懇談会の報告に合わせて配信しましたので詳細は省略いたします。ただ、厳しい国家財政の折、今年も本学は図書館及び空中教室の施設整備を進めることができるようで大変喜んでおります。なお、平成19年度の本学の運営費は効率化係数による減額、授業料の減収、施設整備費の減額などがあり、19年度の種々の事業を考えると、教育研究費を少し削減することになるかと思っていますので、そのときはご協力ください。

早いもので、私の年頭挨拶も今年で5回目になります。予算年度としては今年が最後の年になりますが、多くの課題もありますので、重点的に対応したいと思っています。まずはこの3月までが重要な時期になります。

その一つが、教育研究組織の改組の具体化です。この件で、年度末に文部科学省と意見交換しましたが、設置審の審査事項にはならないようですし、2年前の入試予告の問題も解決できそうです。ただ、できるだけ早く公表することが求められており、学内での協議スピードを速める必要があります。

また、ISO14001の審査が1月、3月に行われ、多くの方にヒアリングなどで協力をお願いすることになっています。この取得は大学の質の向



上を目指すものですので、一夜漬けにならないよう資料などの整理をしておいてください。さらに、認証評価の申請書類も3月までにまとめる予定ですし、18年度の年度評価の資料整理も3月末になります。

もう一つ、経産省のモデル事業である北見ビジョンの支援があります。多くの課題に本学が関係することになっていますが、この事業を成功させることは経産省を始め、本学の応援団を拡大することにもなります。将来の大学のためですので、成功事例になるようぜひご協力いただきたいと思っております。

このように本年度は例年以上に多忙になると考えておりますが、そんな中、格付け評価にも挑戦してくれることになりました。既に準備を始めていますが、一定レベル以上の評価が得られなければ受ける価値がありませんのでしっかり対応したいと思っています。

昨年の年頭挨拶では「オンリーワン、そしてNo.1」を目標にしました。この課題を達成できたわけではありませんが、今年はこれに加え「3AからトリプルAに」を目標にしたいと思っています。3Aは大学案内にも載せている、「アトラクティブな教育、アクティブな研究、アメニティーな環境」の3つの頭文字のAですが、トリプルAはまさに格付けの最高レベルです。小さな地方大学が高い評価が得られるかどうかは、今後の大学運営にとっても重要だと思っています。

以上、今年も色々な課題に挑戦しますが、まずは健康に気をつけていただき、努力が評価につながるよう、また、組織的に活動することをお願いし、年頭の挨拶とさせていただきます。

= 入試 =

平成 19 年度推薦入学試験の実施

(入 試 課)

平成 19 年度推薦入学試験は、小論文及び面接による選抜が 12 月 1 日（金）に実施され、12 月 14 日（木）に合格発表が行われました。

各学科別の合格者等については下表のとおりです。

学 科 名	募集人員	志願者	合格者
機械システム工学科	15	41	24
電気電子工学科	12	17	16
情報システム工学科	10	22	16
化学システム工学科	16	18	17
機能材料工学科	10	12	12
土木開発工学科	16	17	16
計	79	127	101

平成 19 年度大学入試センター試験の実施

(入 試 課)

平成 19 年度大学入試センター試験が、1 月 20 日（土）、21 日（日）の両日実施されました。本学会場の志願者は昨年度より 6 人増の 696 人となりました。

= 研究助成 =

平成18年度 科学研究費補助金交付内定（間接経費追加配分）

○基盤研究(B)一般

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額	新規	継続
土木開発工学科	教授	山下 聡	浅層型メタンハイドレート地盤の地盤工学的評価に関する研究	間接経費 1,890千円が 追加配分	○	

N E D O 技術開発機構 平成18年度産業技術研究助成金交付決定

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
電気電子工学科	助教授	武山 眞弓	Si-ULSIにおける次世代45～32nmノードに適用可能な高信頼Cu配線系におけるナノ界面形成技術の構築	11,700千円

(財) 岩谷直治記念財団 第33回(平成18年度)科学技術研究助成対象研究決定

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
機能材料工学科	教授	青木 清	新規低コスト高性能水素透過合金	2,000千円

平成18年度共同研究の受入状況

平成19年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等
情報システム工学科	講師	後藤 文太郎	地域ブランド形成支援サイトをケースとした、次世代ブランディング手法の開発	株式会社 電通
機械システム工学科	助教授	鈴木 聡一郎	RTK-GPSを利用した高速広域測位システムの試作開発	株式会社OPIS
機械システム工学科	助教授	鈴木 聡一郎	リストアーンのスキルアップを目指したゴルフスイング練習器の開発	北見カントリークラブ
機能材料工学科	教授	青木 清	液体急冷プロセスを利用したNb-Ti-Ni系複相水素透過膜の開発	三菱マテリアル株式会社加工事業カンパニー
電気電子工学科	助教授	菅原 宣義	碍子の塩分付着特性に関する研究	東北電力株式会社研究開発センター
機械システム工学科	助教授	柴野 純一	水素透過複相合金の高温水素環境下応力測定	(社)北見工業技術センター運営協会
国際交流センター	教授	山岸 喬	亜臨界水を用いた食品の加工	(社)北見工業技術センター運営協会
機械システム工学科	教授	羽二生 博之	3Dレーザスキャニングシステムの地形測量分野への応用に関する研究	(株)タナカコンサルタント

平成18年度累計 89件

平成18年度奨学寄附金受入状況

平成19年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額 円
情報処理センター	講 師	寄高 秀洋	工学研究のため (含情報処理センター業務)	寄高 秀洋	75,000
土木開発工学科	助教授	桜井 宏	木材繊維セルローズを利用したコンクリートの品質改善の研究	小倉貿易株式会社 札幌支店	2,800,000
情報処理センター	講 師	寄高 秀洋	工学研究のため (含情報処理センター業務)	寄高 秀洋	75,000
電気電子工学科	助教授	菅原 宣義	各種がいしの着氷雪条件下での絶縁特性に関する研究	日本碍子株式会社 電力事業本部電力 技術研究所	500,000
土木開発工学科	教 授	川村 彰	・路面のころがり抵抗測定方法の開発 ・路面特性から路面のころがり抵抗を算出するソフトウェアの開発	グリーンアーム 株式会社	750,000
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	工学研究のため	株式会社ドーコン	1,000,000
機械システム工学科	教 授	富士 明良	工学研究のため	株式会社ドーコン	500,000
土木開発工学科	助教授	三上 修一	工学研究のため	株式会社ドーコン	1,000,000
化学システム工学科	助教授	伊藤 純一	「ゴルフ場開発による常呂川水質調査・研究」助成のため	北海道漁業環境保全対策本部	800,000
情報処理センター	講 師	寄高 秀洋	工学研究のため (含情報処理センター業務)	寄高 秀洋	75,000

平成18年度累計 67件

= 国際交流 =

マレーシアでの日本留学フェア参加報告

土木開発工学科・助教授 亀田 貴雄
研究協力課国際交流推進室 二村 肇

マレーシアのクアラルンプールおよびペナンで開催された日本留学フェアに参加しましたので、その状況を報告します。これはマレーシアの高校生や大学生に日本の大学や大学院の情報を与えるために年1回開催されているものですが、今回は日本以外の8カ国（マレーシア、シンガポール、オーストラリア、イギリス、アイルランド、ドイツ、オランダ、ロシア）とともに、大学教育フェア（FACON Education Fair06）として開催されました。

クアラルンプールでは2006年12月2日（土）および3日（日）にPutra World Trade Centreで開かれました。参加者は2日間で5000人程度、参加大学等は総勢190機関ありました（写真1に会場の状況を示す）。日本からは19の大学等が参加しました。内訳は、国立大学5（北見工業大学、筑波大学、東京学芸大学、大阪外国語大学、徳島大学）、公立大学1（高崎経済大学）、私立大学13（早稲田大学、慶応大学、南山大学など）、専門学校2（日本工学院専門学校など）、日本語学校4（新宿日本語学校など）、留学生関連機関や日本大使館などが4機関でした。マレーシアでは昨年まで日本の大学等だけで「日本留学フェア」として開催していましたが、今年は（独）日本学生支援機構（JASSO）の判断で、上記のように他国の大学等と一緒に実施したとのことでした。

また、ペナンでは12月6日（水）にTraders Hotelで総勢75機関の大学等が参加して開かれ、約2300人の高校生、大学生が参加しました。日本からはクアラルンプールと同じ大学等がそのまま参加しました。

北見工業大学のブースは、国際交流推進室で用意した大学の旗と大学のポスター、世界遺産知床のポスターを飾りました（写真2）。クアラルンプールとペナンでのフェア期間中、我々のブースには日本で工学教育を受けたい高校生や大学生約70名が訪れ、本学の教育内容や特徴、奨学金制度、住居、授業料について



写真1) クアラルンプールでの FACON Education Fair の様子

て活発に質問をしてくれました（写真3）。その中には、本学の私費外国人留学生申請書を既に入手し、その書き方の具体的な問い合わせをする高校生、本学の大学院博士前期課程への進学希望の大学卒業生も多数訪れてくれました。その他多くの学生に本学のパンフレットを手渡し、事前に準備したパンフレット類はほとんど会場にて配布しました。また、クアラルンプールでのフェアでは、小樽商科大学を卒業したススワン氏（写真2の左端）が通訳として参加してくれ、マレーシアの高校生や大学生との意志疎通に大変役に立ってくれました。なお、同氏は2002年に情報システム工学科を卒業したイルマさんのお兄さんでした。

12月4日（月）午前には、マラヤ大学と北見工業大学との大学間協定の下打ち合わせをマラヤ大学国際交流部で行ないました。事前の準備に従い、こちら側からは「学部生、大学院生、教員の交流」とする方針に対して、日本とマレーシアで学期の時期が異なること（マレーシアの大学は2学期制で7月～10月および12月から3月）を理由に「学部生での交流は難しく、大学院生および教員の交流を中心にしたほうがよいのではないか」との指摘がありました。

12月4日（月）午後には、マラヤ大学予備教

育部において、日本への留学予定の学生に対する数学の授業参観および今年の卒業予定者全員への北見工業大学の紹介を行いました。能力別に編成された2クラスでは、1月上旬に実施する文部科学省による日本留学試験対策のための問題解説を行なっていました。講義前には、予備教育部の渡辺淳一団長（以前は、山口大学に勤務）らと日本の大学教育の現状について話をしましたが、今回の我々のような日本の大学教員による日本の大学紹介は「ここ数年で、初めてではないか」とのことでした。今回の北見工業大学の紹介によって、本学に興味を持つ学生が出るのではないかと思います。

今後は本学に興味を持ち、国費や私費での留学生の期待に応えるべく、本学の関連施設および施策をこれまで以上に充実させることが望めます。特に、寮と奨学金については希望する留学生が多いが、必ずしも学生の希望通りになっていない部分があるので、市や民間、NPO 法人などとの連携を通しての充実が望めます。

また、今回の日本留学フェアの合間には、クアラルンプールやペナンなどで史跡見学をしました。クアラルンプール（人口150万人）の中心部には、二つの巨大なタワーがあり（ペトロナスツインタワー、高さが452m）、1998年の建設時から2003年まで世界で最も高い

建物であったとは迂闊なことに、現地を訪れるまでまったく知りませんでした。クアラルンプールは、アジアを代表する大都市であると思いました。また、ペナンは、マレーシアの北西に位置する285km²（東西12km、南北24km、淡路島の半分程度）の小島で、観光で有名です（人口70万人程度）。この島独特のトライショウ（三輪自転車タクシー）に乗って市内見学をしましたが、イスラムのモスクの近くに仏教の寺があり、その近くにはさらにヒンズー教の寺院があるという感じで、マレー系、中国系、インド系の人々がそれぞれの生活様式で暮らしている様子を確認することができました。マレーシアを訪れるまでは、本学の留学生を通してのみでしかマレーシアを認識していませんでしたが、現地に行くと、日本ではなかなかわからないマレーシアでの生活や自然などに触れることができました。

今回の日本留学フェア参加に当たっては、本学国際交流センターの山岸教授、菅野助教授、荒谷講師、本学国際交流推進室の河合室長や船木係長など、多くの方々のお世話になりました。記して感謝します。



写真2) クアラルンプール会場の北見工業大学のブース



写真3) 本学のブースを訪れたマレーシアの学生

『2006年度北見工業大学水処理技術国際シンポジウム』を開催

土木開発工学科・教授 海老江 邦雄

11月28日(火)、北見東急イン5階オークルームにおいて、北見工業大学と21世紀水処理技術懇話会(世話人代表 海老江 邦雄)との共催で標記の国際シンポジウムを開催しました。当日は、北見・網走地方を含む道東の各地や遠くは関西、関東、札幌方面などから、水処理技術に携わる、或いは水処理技術開発に強い関心を抱く出席者約200名で満席となり、数十名に及ぶ本学学生とともに、7名の講師陣(特別講演2件、一般講演5件)による水処理技術や水環境保全に関する講演に耳を傾けました。

21世紀の人類が健康的な環境のもとで生存し持続的に発展していくためには、年々厳しさを増す水資源(質・量)問題を解決することが極めて重要です。今回の国際シンポジウムは、そのキーポイントである『水処理技術』をメインテーマに設定し、講師陣を日中韓3ヶ国で構成したこと、5名の一般講演の講師全てが北見工業大学出身者で、かつ博士の学位を取得して活躍している若手の学者・研究者としたことが特色です。



海老江邦雄教授による開会挨拶

午後1時、世話人代表海老江および小林道明北見工業大学理事・副学長による開会挨拶の後、李 富生氏(岐阜大学工学部助教授)が座長となり第1部が始まりました。最初の東 義洋氏(水道機工研究開発部)からは、新開発の鉄系凝集剤と従来のアルミ系凝集剤との併用によって湖沼水の処理性改善を図る技術、続く笠原 伸介氏(大阪工業大学助教授)からは、水道用配水管内における水質劣化の有効な抑制対策として管壁付着細菌の世代交代時間を基に管理する方法の紹介がありました。その後、第1部の特別講演の講師である中国の西安建築科技大学副学長の王 曉昌氏からは、降雨の絶対量が不足している中国内陸部で水道、下水道などの環境系社会基盤施設を整備するにあたっては、日本とは基本的に異なる分散型システムの採用が必須であり、特に水の再処理技術のレベルアップや再利用技術の開発が重要な課題であることが報告されました。

休憩後の第2部は、前出の笠原 伸介氏が座長となって進められ、山口 太秀氏(富士電機システムズ環境システム本部開発室)からは、同氏の開発による高性能な粒子カウント方式濁度計の原理、及びそれを用いた凝集の動的過程に基づく凝集沈澱の高効率化に関する研究について、李 宰昊氏(韓国POSCO環境エネルギー部)からは、同氏が勤める世界最大の製鋼所が採用している用水・廃水処理プロセスや周辺環境対策などについて、更に前出の李 富生氏からは、河川・湖沼など富栄養化水域の底泥中に濃縮蓄積したリンなどの栄養塩及びエストロゲンの溶出メカニズム及びそれらの抑制方

法に関する最新の研究成果についての報告がありました。

第2部の特別講演は、国立保健医療科学院水道工学部長の国包 章一氏による『日本の水道 -その現状と将来-』と題するものでした。同氏は、我が国の水道はスタートから120年余り経過して97%を超える高い普及率を達成していること、今後は、原虫感染症の発生などを抑制するために、水源水質の改善、回復に力を注ぐことが重要であることを説明するとともに、一つの方策として、各地の水源水質のレベルを評価し、その改善を目的に水道事業者と住民とが協働することが大切になるとの考えを披瀝しました。

以上の一般・特別講演に対しては、その都度、講師と出席者との間で活発な質疑応答が繰り返され、出席者の関心の高さをう

かがうことができました。最後に、橋本 克紘氏（北見工業大学元客員教授、水道機工監査役）から、全体の総括を含めた閉会の挨拶がありました。その後、別室のアイビールームで懇親会が催され、来賓として北海道議会議員、市長、市議会議長が出席されるなど出席者は多く、盛大な懇親会となりました。



シンポジウムの様子

第2回北見工業大学パネル展を開催

(総務企画課)

去る12月9日(土)、コラボ産学官 in TOKYOにおいて、「第2回北見工業大学パネル展」を開催いたしました。本学の教育研究活動を関東圏の方々に広く知ってもらうため、昨年に引き続き開催するものです。

当日は、本学の研究活動、学生生活などを紹介するパネル約60枚を展示するとともに、企業関係者を対象とする研究シーズ紹介の講演、

本学の受験を検討されている方を対象とする進学相談コーナー、大学紹介ビデオ上映、オホーツク地方の物産の展示等、盛りだくさんの企画が実施されました。

あいにくの小雨模様の天気にかかわらず、会場には、江戸川区の企業関係者をはじめとして、関東圏在住の本学OBの方々も応援に駆けつけ、賑やかなうちにパネル展を終了しました。



常本学長による開会の挨拶



研究シーズ紹介の講演



展示パネル



物産コーナー

FD推進のためのワークショップおよび報告会を実施

(教務課)

本学では、平成18年12月26日(火)に、平成18年度ファカルティ・ディベロップメント(FD)推進のためのワークショップを実施しました。このワークショップには本学の教員13名が参加し、A、Bの2つの班に分かれて、それぞれ「本学の魅力・特色の学外(高等学校、受験生及び保護者)へのアピール方法について」、「本学の教育、学生指導の充実について」という題目で討議を行いました。

その後、報告会が平成19年1月17日(水)

に多目的講義室で行われ、ワークショップでの討議内容の報告が発表されました。各班の報告者はパワーポイントにより資料を提示しながら、討議題について出された意見や、本学が現在置かれている状況、またそれに対する今後の改善案等を説明しました。引き続き設けられた質疑・応答の時間には、発表内容に関しての質問や意見が多数出され議論されるなど、内容の濃い報告会となりました。



熱心に聞き入る参加者たち

ウインター・サイエンスキャンプ「雪と氷の世界を体験しよう」を実施

(教務課)

1月5日(金)から7日(日)までの2泊3日の日程で、独立行政法人科学技術振興機構主催のウインター・サイエンスキャンプを実施しました。

今回で3回目の実施となるこの事業には、全国各地から15名の高校生たちが参加し、「雪と氷の世界を体験しよう～雪結晶から地球環境まで～」をテーマに本学の屈斜路研修所を主会場として実施されました。寒冷地における光学現象の講義及び赤外カメラを使用し摩周湖や硫黄山を観測したり、仁伏温泉ポンポン山にかんじきをはいて登山する

など、寒冷地ならではの実験や実習を体験しました。更に、本学講師の南極体験記の講義もあり盛り沢山の3日間となりました。

最終日は、オホーツク地域の天候が大荒れとなったため、参加した高校生の帰路の面で心配されましたが無事に帰省することができました。

キャンプ中は、高校生たちと講師との積極的な交流が行われ、厳しい冬の北海道と自然の美しさを科学的に体験することができました。



積雪の断面観測の様子



かんじきをはいてポンポン山を探索した高校生たち

旭山動物園長の特別講演会を実施

(教務課)

全国的にその名を広め、今や日本全国や近隣国から入園者が訪れている「旭山動物園」。その立役者である小菅園長に来学いただき、本学学生を対象とした特別講演会「21世紀の動物園」が行われました。

学生、教職員と近郊の看護大学の学生も参加し、約300名の聴講者を前に、ここまで有名となった園長はじめスタッフの苦勞と努力の歩みが披露されました。

前半は、動物園の役割の一つとなっている「種の保存」。今や絶滅の危機となっている北極熊やオジロワシ、アムールトラなど多くの動物の繁殖に係る研究内容の説明がありました。園長は学生時代柔道に没頭していて、獣医学部「柔道学科」卒業と冗談を言っていました。獣医師であると共に著名な研究者でもあります。

後半は「行動展示」について、新聞、TVで報道されている園内のユニークな施設を発想から企画、完成までのいきさつをおもしろおかしく説明

されました。いかにして少ない予算で、かつ動物が生き生きとしている様子を多くの入園者に見ていただくか、動物を見に来るお客様を意識したのではなく、動物が飽きない行動形態を想定して施設作りに当たったとのことでした。

予定の講演時間をオーバーしての講演会でしたが、まだまだ聞いていたい内容でした。最後に学生から「ペンギンを飼ってみたいけど・・・」という質問に、「ペンギンだけでなく将来大金持ちになって動物園ごと買ってほしい」というユニークな答えがあり、会場を沸かせていました。終了後に常本学長から「是非とも学生に聞かせたかったし、私自身も大学経営の参考としたかった・・・etc」という内容で謝辞が述べられました。



講演に聞き入る聴講者たちの様子



講演をする旭山動物園小菅園長

北見工業大学「技術士養成支援講座」の開講

(研究協力課)

札幌市近郊に在住する本学の土木開発工学科卒業生を対象として、「技術士養成支援講座」を本学出身技術士の全面的な協力を得て、札幌サテライトにおいて開講することとなりました。

本講座は、札幌在住の本学出身技術士7名及び北見在住の2名が講師となり、実践的な講義内容を親切・丁寧に指導し、「技術士」の資格取得を支援するものです。

開講期間は、1月から7月までの第2・3金曜日に合計13回とし、開講時間についても、勤務後に参加しやすいように17時30分から2時

間で実施する旨募集したところ、17名の応募がありました。

第1回目の1月26日は、常本学長から各講師の方々へ「客員教授」の称号授与の後、開講にあたっての挨拶並びに大島理事から講座の趣旨説明があり、各講師からは受験に際しての留意事項及び各受講者からは資格取得に向けた決意表明を含めた自己紹介の後、休憩をはさみ、岡田包儀技術士による「技術士試験のガイダンス」で終了しました。



学長からの挨拶



説明に聴き入る受講者

= 日誌 =

(総務企画課)

- | | |
|---------------------|------------------------------------|
| 12月 1日 休講 | 1月 5日 ウィンターサイエンスキャンプ
(～7日) |
| 公開講座 (～22日) | 9日 集中講義期間 (～12日) |
| 推薦入学試験 | 企画運営会議 |
| 国際交流委員会 | 10日 教育研究評議会 |
| 4日 推薦入学者選抜実施委員会 | 11日 教務委員会 |
| 企画運営会議 | 12日 外国人留学生スキー研修 |
| 6日 教育研究評議会 | 15日 企画運営会議 |
| 8日 教務委員会、就職アドバイス | 16日 金曜日授業振替日 |
| 11日 企画運営会議 | 17日 FD推進のためのワークショップ報告会 |
| MOTプレスクール (～13日) | 教授会、研究科委員会 |
| 13日 入学者選抜委員会 | 19日 休講 |
| 14日 推薦入試合格発表 | 20日 大学入試センター試験 (～21日) |
| 教授会、研究科委員会 | 23日 SVBL特別講演会 |
| 全学説明会 | 25日 地域共同研究センター産学官連携推進
員・協力員合同会議 |
| 15日 経営協議会、学長選考会議 | 26日 就職ガイダンス |
| 16日 工業系数学統一試験 | 27日 外国人留学生研修旅行 |
| 18日 地域連携推進委員会 | |
| 19日 公開講座 (～21日) | |
| 附属図書館委員会 | |
| 20日 国際交流委員会 | |
| 22日 情報システム運営委員会 | |
| 就職ガイダンス | |
| 23日 冬期休業日 (～1/8) | |
| 26日 FD推進のためのワークショップ | |